



# YMCA

月刊 The YMCA 付録

編集・発行 / 日本 YMCA 同盟 東京都新宿区本塩町7番地  
 大阪青年 発行: 末岡祥弘 編集: 大阪 YMCA 広報室  
 〒550-0001 大阪市西区土佐堀 1-5-6  
 TEL:06-6441-0894 FAX:06-6445-0297  
 URL: http://www.osakaymca.or.jp/  
 (年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

## 大阪青年

2008 Jun.6

No. 607

### 大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代のひととが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界のひとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

### YMCAの願い



# 「すこやかな心とからだ」

ウエルネス事業本部 **なかむら 中村** **たかし 隆**



大阪YMCAは、未来を築く子どもたちを育むための様々な活動を行ってきました。1920年、日本で最初の教育キャンプを六甲山麓で行い、東京オリンピックが行われた1964年、「体育が好きになる教室」を大阪市教育委員会の後援を得て開設しました。時は流れ、子どもたちの社会的な課題は「体力の低下」と「自然体験の希薄さ」だと言われています。

文部科学省が1964年から継続している「体力・運動能力調査」によると、体力テスト項目の一つであるソフトボール投げ(11歳)の1986年度と2005年度の比較で、男子12:5%、女子で14:4%の低下がみられ、他の種目でも同様の傾向がみられます。体力の低下は、子どもが豊かに自ら学び、自ら考える力を身につける際に影響を及ぼしたり、将来の生活習慣病の増加にもつながると予測され、社会全体の活力を失うことが危惧されています。

また「子どもの体験活動等に関するアンケート調査」(1998年文部科学省実施)では、生活体験(ナイフや包丁で野菜や果物を切ったことがある等)・お手伝い(食器をそろえたり、片付けたりする等)・自然体験(太陽が昇るところや沈むところを

見た等)が豊富なことが道徳観・正義感等の価値観の充実に寄与すると報告しています。

「寝る子は育つ」。昔から当たり前のように言われているように、よく食べ、よく遊ぶと自然とよく寝る。そんな暮らしが、子どもたちには必要です。親元を離れキャンプに参加し、海や山の大自然に抱かれ、日が暮れるまで目を輝かせて遊びます。キャンプは共同生活ですから食事の用意や寝具の準備など「自分の事は自分です」ことが基本です。遊び疲れた子どもたちは、夜はぐっすり睡眠をとり、翌朝はお腹を空かして朝食を待ちわびます。キャンプはより良く成長するための生活習慣を養う場です。

「都会」の子どもたちが安全に安心して遊ぶことのできる場所が少なくなつた環境では、スポーツも習い事の一つになりました。しかし、そこには大人が介在し、子どもたちが自らルールを考え、自由な遊びとしてスポーツを楽しむ場ではなく、なりました。本来、幼少年期のスポーツは勝敗にこだわることではなく、ゲームを楽しみながら、フェアプレーの精神を知らず知らずの内に身につける場であるはずで、試合中にコーチや親が子どもたちに大声で指示を与えている場面では、自ら考え、プレーを選択し、失敗を恐れずチャレンジする気持ちは養われません。

— YMCAの願い —

YMCAでは活動をおこなうことを学びます。

「自分のいのちとみんなのいのちを大切にすること」

「家族、地域のひととして責任があること」

「世界と地球を見つめ、考え、行動すること」

「ボランティア精神とリーダーシップを身につけること」

「すこやかな心とからだを育むこと」

YMCAでは、これらを実現するために、「思いやり」「誠実さ」「責任感」「尊敬心」をすべての場面で大切にしています。

### 地の塩

▼日本の3月・4月は別れと出会いの季節であります。この時期には各地域のYMCAでもリーダー感謝会が行われ、大学生生活の中でYMCAリーダーとして奉仕していただいた人たちが卒業されるにあたり、これまでのご奉仕に感謝すると同時に、新しくリーダーとして入ってこられたフレッシュな方々を歓迎する集いが開かれます▼この感謝会に出席して常に感銘を受けることは、卒業されるリーダーたちが語る、これまでのリーダー活動での感想であります。彼らは子どもたちと多くの時間を共に過ごし、指導の傍ら子どもたちから多くを学んだことを語り、この貴重な経験をこれからの人生に活かしていきたい、と言っています。また、共にリーダーとして力を合わせた活動してきた仲間たちや子どもたちとの別れに涙します。そして最後に、自分の学生生活の中でYMCAリーダーとして過ごしたことは本当に良かった、と感謝の言葉で結んでいます▼現代の学生の多くはアルバイトに精を出し、その収入のほとんどは自分の欲望のために費やしているのが現状です。そういう中において学生時代をYMCAリーダーとして仲間と共に多くの子どもたちと接し、お金では買えない、たくさんの価値を得たことは彼らのこれからの歩みにとって素晴らしい財産となることでしょう▼そしてまた、このリーダー活動の場を提供しているYMCAの存在とその働きは、これからの社会にとつてますます重要なものとなるでしょう。(池)